令和８年度当初予算　市長会見

日時：令和８年２月１８日（水）　午後１時３０分～
場所：射水市役所会議室４０１
報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、朝日新聞
　　北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、
　　射水 CATV、庄東タイムズ・ホットライン小杉、建設工業新聞
当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
　　財務管理部次長、財政課長

Ｑ１．　昨年１１月の市長選挙で５期目の当選を果たされてから初めての予算編成だが、一番力を入れたことや思いを教えていただきたい。

Ａ１．　新たな任期を与えられて初めての予算編成である。力を入れた事業については、三つの特別枠を設け、それぞれ着実に進めるという思いで、予算を優先的に配分した。

「こどもまんなか社会実現特別枠」では、学校給食費の無償化を図った。国は小学校給食費の実質無償化を進め、児童１人あたり月額５，２００円を出すことにしている。しかし、射水市では児童１人あたり６，３００円かかっており、この不足分を国の重点支援交付金を活用し、市で無償化を図ることとしている。また、中学校の給食費は国の措置がないが、市として無償化を図るべく、今回踏み切った。財源は、半分を国の重点支援地方交付金、残り半分を一般財源で負担する。今後、国も小学校給食費無償化に続き、然るべき時期に中学校も実施するという方針を示しているため、早期に取り組んでいただくよう要望しながら、市としては国に先駆け、中学校の給食費無償化に踏み切り、子育て世帯の経済的負担軽減と学校給食の充実を図っていきたいと考えている。

二つ目の「選ばれるまち射水創生特別枠」は、「のるーと射水」の市全域での本格導入が柱である。これまで市の東側エリアでは既に本格導入していたが、今年度は昨秋から実証実験として、市の西側エリアで試験運行している。その中で得られた課題や効果を踏まえ、新年度の４月から本格導入を図る予定である。持続可能な公共交通の維持と市民の利便性向上を両立できるように進めていきたい。また、「いみず住まいづくり支援補助金」について、これまでも指定宅地取得支援助成金やいみず住まい等

応援事業補助金などは、非常に活用され、評価もされてきたところである。社会情勢の変化などを踏まえ、この２つの既存制度を統合し、国からの補助金を併用して活用できるよう内容を見直し、中古住宅も対象に含めるなど、拡充を図った。これにより、より使いやすく、状況に応じた支援ができるよう変更したものである。

最後に、「震災復興、防災・減災特別枠」については、デジタル防災行政無線の見直しや液状化対策などを進める。さらに、早期の復旧・復興はもちろん、近年頻発化・激甚化する様々な災害から市民の生命・財産を守るため、市として取り組むべき事業には積極的に予算計上を行い、体制の強化や環境の充実を図っていく考えである。